

調査報告書

敷地内全面禁煙である本学における喫煙者、非喫煙者の喫煙に対する意識調査

目的

本学は2006年4月の4年制大学開設と同時に敷地内全面禁煙となった（それまでは本館2階に喫煙室を設置していた）。すでに5年を経過し、学生、教職員および市民にも広くそのことが定着しているようではあるが、校門前や校舎間を走る道路上での喫煙がしばしば見られ、敷地内全面禁煙の目指す意義を大学構成員がどの程度理解しているのかと疑念の声が一部ではあげられている。このように、敷地内全面禁煙の医療機関などの施設では、敷地をわずかにはずれた場所で喫煙する姿が多く見られるが、そのような状況について、喫煙者、非喫煙者がどのような意識を持っているかの調査は、極めて少ない。

2010年10月1日にはたばこ税が引き上げとなり、喫煙率の低下が期待された。また、禁煙指導が保険診療として認められ、ニコチン代替療法ばかりではなく、ニコチンを含まない補助薬（バレニクリン）が開発され、これも保険診療の対象となるなど、たばこ対策がこれまでとは異なる段階に入ったものと考えられる。

このような機会に、大学構成員の健康管理、市民に対する大学の姿勢を考え、本学における喫煙者、非喫煙者の喫煙に対する意識調査を実施し、学生と教職員の喫煙による健康被害防止対策を促進することを目的として本研究を実施した。

対象と方法

- ① 対象：2011年度4月に在籍する本学の全学生712名および全教職員101名を対象とした。
- ② 回答回収方法：学生に対しては、各学年・学科の必修授業を担当する教員に協力を依頼し、授業の際に質問紙、回答用マークシートを同時に配布し、学生に授業時間後にマークシートの番号を塗りつぶし、無記名で回答を求めた。学生の代表者に回収を依頼し、研究担当者あるいは保健福祉センターの回収箱に投函させた。教職員に対しては、教授会で報告した後、研究担当者が全教職員に質問紙、回答用マークシートを同時に配布し、回答は事務局の回収箱への投函を依頼した。
- ③ 倫理的配慮：質問紙に趣旨と倫理的配慮（回答者の署名を求めない・プライバシーの厳守）を説明し、同意した対象者のみに回答を依頼した。また、本学倫理委員会の承認を得た。
- ④ 結果分析方法：マークシートは回収後、マークシートリーダーで読み取り、エクセル、あるいはSPSSのファイルとし、統計学的な分析を行った。

結果

①回収率

学生464名（回収率65.2%）、教職員58名（回収率57.4%）から有効回答を得た。

②質問項目への回答（表 1）

現在喫煙している割合は 5.9%であった。体調等についての質問では、そうでない場合に比べ「体調が良い」50.7%、「気分がすっきりする」64.4%、「より集中できる」47.4%、「ストレスがより少ない」61.9%であった。全面喫煙については 81.1%が「教育機関として当然のことだと思う」と回答していた。一方、「道路上喫煙の見苦しさや隠れて吸うことによる火災の危険を理由に喫煙室を設置すること」には 66.5%、「成人の喫煙が合法であることから権利を守るために喫煙室を設置すること」には 60.6%が賛意の回答であった。一方、「喫煙規制の廃止」には 87.7%が反対の意見であった。道路上での喫煙については「敷地外なので問題はない」37.6%、「よくないが仕方がない」53.0%、「やめるよう自覚を促すべき」56.3%、「大学の規則で禁止すべき」32.5%、「市の条例等で法的に禁止すべき」36.8%であった。喫煙に関する考えについての質問のうち、加濃式社会的ニコチン依存度（KTSND）の項目以外には「保健、医療、福祉、教育に従事する専門職は喫煙すべきではない」、「保健、医療に従事する専門職は一般の人々に禁煙のアドバイスをするための知識を持っているべきだ」にそう思う、ややそう思うと回答したのはそれぞれ 59.0%、89.4%であった。

③回答者の属性（性別、学生か教職員か、喫煙状況）による回答比率の差（表 2、3、4、5、6）

回答者の属性により回答比率に差があるかどうかを、カイ 2 乗検定または Fisher の正確確率検定（セルの期待値が 5 以下の場合）で検討した。有意な差があったものを表 2、3、4 に示す。性別では、喫煙に関する考えについての質問項目で有意差があった項目が多かった。学生か教職員かでは、全面喫煙についての質問項目で有意差があった項目が多かった。もっとも多くの項目に有意な差があったのは、喫煙状況によるものであった。全面喫煙による体調等の質問項目、道路上での喫煙に関する質問項目、喫煙に関する考えについての質問項目で有意差があった項目が多かった。

属性間には相互に関連があるため、全面喫煙についての質問項目と道路上での喫煙に関する質問項目については、どの属性が有意に回答と関連しているかをロジスティック回帰分析で検討した（表 5、6）。全面喫煙についての質問項目では、「全面禁煙は教育機関として当然のことだと思う」への賛否は喫煙状況が有意に関連し、喫煙者は否定的であった。「成人の喫煙は合法なので、喫煙室を設けるなど喫煙者の権利も一部守ってほしい」への賛否は学生か教職員かが有意に関連し、学生のほうが肯定的であった。道路上での喫煙に関する質問項目では、「道路は大学の敷地内ではないので、喫煙することに問題はない」、「道路上の喫煙はよくないので、やめるように自覚を促すべき」への賛否は学生か教職員かが有意に関連し、前者には学生のほうが肯定的で、後者には教職員のほうが肯定的であった。喫煙状況が有意に関連があったのは「道路上の喫煙はよくないので、やめるように自覚を促すべき」、「道路上の喫煙はよくないので、市の条例（文教地区では道路上の喫煙を禁止する条例など）で法的に禁止すべき」であり、喫煙者は否定的であった。性別では有意な関連はなかった。

④KTSND（表 7）

属性により有意な差があったのは喫煙状況によるもののみで、喫煙者は非喫煙者より有意に点

数が高かった。

⑤禁煙者の禁煙のきっかけ（表 8）

以前習慣的に吸っていたことがあるが現在は吸わない人が、喫煙をやめたきっかけを質問した。最も多かったのは「自分の健康を考えて」が 9 名（40.9%）次いで「たばこの値上げ」5 名（22.7%）であり、「学校や職場の禁煙」がきっかけであったのはわずかに 1 名（4.5%）であった。

⑥喫煙者に対する質問項目への回答（表 9）

大学にいるときも喫煙するのは 53.3%で、喫煙場所は大学の敷地から出た道路上が 85.0%と多かった。学校、職場での禁煙化や値上げでは、それぞれ 58.6%、75.9%は喫煙本数に変化がないと回答していた。禁煙の希望では「今は禁煙したいと思わない」50.0%、「禁煙したいが、もう少し先でよい」46.4%であり、強く希望する人はほとんどいなかった。

⑦喫煙者の中での属性による回答差（表 10、11）

禁煙希望では教職員は「今は禁煙したいと思わない」との回答が、学生は「禁煙したいが、もう少し先でよい」との回答が有意に多かった。喫煙本数、喫煙歴（タバコ指数）、ニコチン依存度、KTSND では、喫煙歴（タバコ指数）のみが教職員で有意に多かった。

⑧喫煙者の喫煙本数、喫煙歴（タバコ指数）、ニコチン依存度、KTSND の間の相関（表 12）

喫煙本数とニコチン依存度、ニコチン依存度と KTSND の間に有意な相関があった。

考察

本学ではほとんどが非喫煙者であり、特に学生はその傾向が強かった。また、半数以上は、喫煙制限がない場合に比べ体調などがよい、ほとんどが大学は全面禁煙が当然である、半数以上が「専門職は喫煙すべきでない」、「禁煙指導ができる知識が必要」と回答していた。一方、喫煙室の設置は 60%以上が賛意の回答であったが、質問の文章が道路上喫煙の見苦しさ、火災の危険、喫煙者の権利を理由としていたためである可能性も否定できない。道路上の喫煙では、「良くないが仕方がない」と「やめるよう自覚を促すべき」という意見が半数を超えていた。また、禁煙者については、禁煙のきっかけが大学・職場の禁煙化であることは極めてかった。喫煙者では全面禁煙・値上げでの喫煙本数変化はあまりなく、すぐにでも禁煙に取り組もうとする人は極めて少ないことも明らかとなった。

これらの結果を踏まえて、保健福祉センター運営委員と学生の参加を得て、結果について意見交換会を行った。教職員、学生とも意見交換のメンバーには、非喫煙者と喫煙者（喫煙経験者）を加えた。全面禁煙については、一部の大学では全面禁煙としてきたが、門の前の路上での喫煙が好ましくないとの理由で、喫煙ブースを設置するところもあるとの情報提供があった。また、都道府県庁については出先機関では全面禁煙としているところが多いが、本庁では喫煙場所を設置しているところが多い。しかし、4 年制大学設置の前までは本館 2 階に喫煙室が設置されており、そのためか、建物全体でかなり強いタバコの臭いが感じられ、一部には不快感を示す人もいたことも報告された。

本学が保健、医療、福祉、教育、保育の専門職を養成する施設であること、4 年制大学設置の

2006年に全面禁煙を実施した理由のひとつは健康増進法 25 条の努力義務に従うことであり、その、法の目的は非喫煙者の健康と快適さを守るということを勘案すれば、喫煙室を設置し、禁煙規制を一部ではあるものの、緩和することは、たとえ賛意の回答が多くても慎重である必要がある。さらに、学生うち 1、2 年生の多くは未成年者であり、未成年者喫煙禁止法からみても、未成年者が容易に喫煙できないような環境にする責務が大学にある。

道路上での喫煙については、吸殻の散乱などもほとんどなく、マナーが守られているものと考えられるが、しばしば、多数の喫煙者が同時に喫煙しながら、雑談などを行っている姿は、対外的には必ずしも好ましいものではない。喫煙者自身のマナーの徹底も求められる必要がある。すぐ隣に中学校があること、市民の目にさらされていることを勘案し、喫煙室を設置するにしても、既存の建物内に設置すれば、換気扇のみでは排出した煙や臭いが他の窓から流入するなど、受動喫煙を防止することは不可能であるので、相当の工夫と費用を要するものと思われる。可能性があるとするれば、既存の建物とは別に独立した喫煙ブース（甲南大学方式）を、既存の建物と最も距離が離れたグラウンドの隅に設置するという可能性も考えられる。しかし、そのように既存の建物と離れた位置にある喫煙ブースを、実際に喫煙者が使うかどうかには疑問がある。また、相当の費用を要することも勘案する必要がある。これらのことから、ほとんどが非喫煙者で構成される本学で、しかも、保健医療福祉専門職を育てる教育機関としての大学の理念を勘案すれば、たとえ、教員や学生の意向どのようなものであろうが、これまでの全面禁煙を続けることが妥当であると考えられる。道路上喫煙の問題は、敷地内全面禁煙の存廃とは切り離して、今後とも継続して対策を検討すべきものと考えられる。

現在の喫煙者に関してみれば、禁煙を試みようとする意識付けがまだ不十分であった。禁煙については、より若年で開始したほうが、その効果は大きい。特に年齢の若い学生や教職員については、その効果を勘案し、個別に、意識啓発と禁煙に踏み切るきっかけづくりに取り組む必要があると思われた。喫煙者が大幅に減少し、ほとんどいなくなれば、道路上での喫煙の問題も解決できることは言うまでもない。

調査結果や、意見交換会を踏まえた本報告書の考察が、本学の今後の喫煙対策の検討のために活用され、学生と教職員の健康に資することを希望する。

文献等

- 1) 荒ひとみ、西山真澄、山崎茜、苫米地真弓、芝木美沙子、笹島由美. 敷地内全面禁煙に対する意識と実施後の変化. 北海道教育大学紀要 2006;57:295-302.
- 2) 寺山和幸、舟根妃都美、村上正和、渡邊朋枝、澁谷香代、鈴木敦子、結城佳子、加藤千恵子、播本雅津子、太田知子、佐藤郁恵、望月吉勝. 女子看護学生の生活習慣および喫煙に対する考えと喫煙行動の関連. 北海道公衆衛生学雑誌 2009;22:145-152.
- 3) 大谷順子. 加濃式社会的ニコチン依存度調査票 (KTSND) を用いた大学生低学年の喫煙に対する意識調査と健康教育の効果. 九州大学大学院教育学研究紀要 2007;10:97-116.
- 4) <http://www.health-net.or.jp/tobacco/risk/rs210000.html>
- 5) 甲南大学生生活協同組合のホームページ (<http://www.knu.jp/coop/column/column1104.html>)

報告 : 2011 年 9 月 7 日

名寄市立大学 保健福祉センター (センター長 : 大見広規)

意見交換会メンバー

- ・保健福祉センター運営委員 : 小林宏、水野芳子、家村昭矩
- ・学生 : 沖崎俊幸、品川光、澤本佳奈、佐藤みず希、今野朱音

表 1. 質問項目への回答

属性	質問	選択肢		回答数	%
Q01 性別は		1 男性	2 女性	96	18.3
		1 学生	2 教職員	428	81.7
Q02 学生ですか、教職員ですか		1 学生	2 教職員	464	88.9
		58	11.1		
喫煙状況 Q03 たばこを吸いますか		1 もともと習慣的に吸うことではない	2 以前習慣的に吸っていたことがあるが現在は吸わない	452	89.2
		3 現在、習慣的に吸っている		25	4.9
		1 良いと感じる	2 悪いと感じる	30	5.9
Q05 制限がない施設にいる場合に比べ、体調は		3 あまりかわらない		265	50.7
		1 すつきりすると感じる	2 悪いと感じる	105	19.9
		248	47.4		
Q06 制限がない施設にいる場合に比べ、気分は		1 より少ないと感じる	2 より多いと感じる	323	61.9
		31	5.9		
		168	32.2		
Q28 制限がない施設にいる場合に比べ、ストレスは		1 少ないと思う	2 多いと思う	426	81.8
		95	18.2		
Q29 教育機関として当然のことだと思う		1 そう思う	2 そう思わない	64	12.3
		455	87.7		
全面禁煙ではあることでも感じることで	Q30 道路上の喫煙は臭苦しい、隠れてトイレなどで吸うことで火災の危険もあるなどの理由で、仕方がないが喫煙室を設置すべき	1 そう思う	2 そう思わない	347	66.5
		175	33.5		
どうか	Q31 成人の喫煙は合法なので、喫煙室を設けるなど喫煙者の権利も一部守ってほしい	1 そう思う	2 そう思わない	314	60.6
		204	39.4		
	Q32 成人の喫煙は合法なので、喫煙の規制は廃止するべきである	1 そう思う	2 そう思わない	64	12.3
		455	87.7		
	Q33 成人の喫煙は法的に認められているので、喫煙場所を規制するほうが間違っている(大学の敷地内禁煙も間違い)	1 そう思う	2 そう思わない	61	11.7
		482	88.3		
	Q34 道路は大学の敷地内ではないので、喫煙することに問題はない	1 そう思う	2 そう思わない	196	37.6
		325	62.4		
	Q35 道路上の喫煙はよくないが、しかたがない	1 そう思う	2 そう思わない	277	53.0
		246	47.0		
路上喫煙について	Q36 道路上の喫煙はよくないので、やめるように自覚を促すべき	1 そう思う	2 そう思わない	227	43.7
		169	32.5		
	Q37 道路上の喫煙はよくないので、大学の規則で禁止すべき	1 そう思う	2 そう思わない	169	32.5
		351	67.5		
	Q38 道路上の喫煙はよくないので、市の条例(文教地区では道路上の喫煙を禁止する条例など)で法的に禁止すべき	1 そう思う	2 そう思わない	188	36.8
		323	63.2		
		105	20.1		
		156	29.8		
		140	26.8		
		122	23.3		
		96	18.4		
		120	23.0		
		153	29.3		
		153	29.3		
		224	42.8		
		145	27.7		
		157	30.0		
		72	13.8		
		94	18.0		
		149	28.5		
		192	36.8		
		87	16.7		
		79	15.2		
		134	25.8		
		176	33.8		
		131	25.2		
		34	6.5		
		64	12.3		
		147	28.2		
		276	53.0		
		99	19.0		
		198	38.0		
		106	20.3		
		118	22.6		
		36	6.9		
		43	8.2		
		163	31.2		
		280	53.6		
		42	8.1		
		37	7.1		
		181	34.8		
		280	50.0		
		227	43.6		
		178	34.2		
		64	12.3		
		52	10.0		
		141	27.1		
		166	31.9		
		129	24.8		
		85	16.3		
		294	56.4		
		172	33.0		
		36	6.9		
		19	3.6		

表2. 性別と回答：有意な回答比率の差があったもの

属性

	Q2 学生か、教職員か		計
	1 学生	2 教職員	
男性	回答数 69	26	95
	% 72.6	27.4	100.0
	調整済残差 -5.6	5.6	
女性	回答数 395	32	427
	% 92.5	7.5	100.0
	調整済残差 5.6	-5.6	
カイ2乗検定 P<0.0001			

	Q3 喫煙状況			計
	1 非喫煙	2 禁煙(過去に喫煙)	3 現在喫煙	
男性	回答数 72	10	12	94
	% 76.6	10.6	12.8	100.0
	調整済残差 -4.3	2.8	3.1	
女性	回答数 380	15	18	413
	% 92.0	3.6	4.4	100.0
	調整済残差 4.3	-2.8	-3.1	
Fisherの正確確率検定 P=0.0002				

喫煙に関する考え

	Q39 タバコを吸うこと自体が病気になる:KTSND				計
	1 そう思う	2 ややそう思う	3 あまりそう思わない	4 そう思わない	
男性	回答数 28	19	20	29	96
	% 29.2	19.8	20.8	30.2	100.0
	調整済残差 2.5	-2.4	-1.5	1.8	
女性	回答数 77	137	120	93	427
	% 18.0	32.1	28.1	21.8	100.0
	調整済残差 -2.5	2.4	1.5	-1.8	
カイ2乗検定 P=0.0052					

	Q40 喫煙には文化がある:KTSND				計
	1 そう思う	2 ややそう思う	3 あまりそう思わない	4 そう思わない	
男性	回答数 29	21	22	23	95
	% 30.5	22.1	23.2	24.2	100.0
	調整済残差 3.4	-0.2	-1.5	-1.2	
女性	回答数 67	99	131	130	427
	% 15.7	23.2	30.7	30.4	100.0
	調整済残差 -3.4	0.2	1.5	1.2	
カイ2乗検定 P=0.0078					

	Q42 喫煙する生活様式も尊重されてよい:KTSND				計
	1 そう思う	2 ややそう思う	3 あまりそう思わない	4 そう思わない	
男性	回答数 35	23	23	14	95
	% 36.8	24.2	24.2	14.7	100.0
	調整済残差 5.3	-1.0	-2.8	-0.6	
女性	回答数 59	126	169	73	427
	% 13.8	29.5	39.6	17.1	100.0
	調整済残差 -5.3	1.0	2.8	0.6	
カイ2乗検定 P<0.0001					

	Q43 喫煙によって人生が豊かになる人もある:KTSND				計
	1 そう思う	2 ややそう思う	3 あまりそう思わない	4 そう思わない	
男性	回答数 27	28	22	19	96
	% 28.1	29.2	22.9	19.8	100.0
	調整済残差 3.9	0.8	-2.5	-1.3	
女性	回答数 52	106	154	112	424
	% 12.3	25.0	36.3	26.4	100.0
	調整済残差 -3.9	-0.8	2.5	1.3	
カイ2乗検定 P=0.0003					

	Q44 タバコには効用(からだや精神に良い作用)がある:KTSND				計
	1 そう思う	2 ややそう思う	3 あまりそう思わない	4 そう思わない	
男性	回答数 12	17	30	36	95
	% 12.6	17.9	31.6	37.9	100.0
	調整済残差 2.7	1.8	0.8	-3.3	
女性	回答数 22	47	117	240	426
	% 5.2	11.0	27.5	56.3	100.0
	調整済残差 -2.7	-1.8	-0.8	3.3	
カイ2乗検定 P=0.0018					

	Q45 タバコにはストレスを解消する作用がある:KTSND				計
	1 そう思う	2 ややそう思う	3 あまりそう思わない	4 そう思わない	
男性	回答数 28	31	18	19	96
	% 29.2	32.3	18.8	19.8	100.0
	調整済残差 2.8	-1.3	-0.4	-0.7	
女性	回答数 71	167	88	99	425
	% 16.7	39.3	20.7	23.3	100.0
	調整済残差 -2.8	1.3	0.4	0.7	
カイ2乗検定 P=0.0464					

		Q46 タバコは喫煙者の頭の働きを高める：KTSND				
		1 そう思う	2 ややそう思う	3 あまりそう思わない	4 そう思わない	計
男性	回答数	16	13	26	40	95
	%	16.8	13.7	27.4	42.1	100.0
	調整済残差	4.2	2.1	-0.9	-2.5	
女性	回答数	20	30	137	240	427
	%	4.7	7.0	32.1	56.2	100.0
	調整済残差	-4.2	-2.1	0.9	2.5	
カイ2乗検定		P<0.0001				

		Q47 医者はタバコの害を騒ぎすぎる：KTSND				
		1 そう思う	2 ややそう思う	3 あまりそう思わない	4 そう思わない	計
男性	回答数	18	12	28	37	95
	%	18.9	12.6	29.5	38.9	100.0
	調整済残差	4.3	2.3	-1.2	-2.4	
女性	回答数	24	25	153	223	425
	%	5.6	5.9	36.0	52.5	100.0
	調整済残差	-4.3	-2.3	1.2	2.4	
カイ2乗検定		P<0.0001				

		Q49 保健、医療、福祉、教育に従事する専門職は喫煙すべきではない				
		1 そう思う	2 ややそう思う	3 あまりそう思わない	4 そう思わない	計
男性	回答数	34	18	23	21	96
	%	35.4	18.8	24.0	21.9	100.0
	調整済残差	2.0	-3.1	-0.2	1.6	
女性	回答数	107	148	106	64	425
	%	25.2	34.8	24.9	15.1	100.0
	調整済残差	-2.0	3.1	0.2	-1.6	
カイ2乗検定		P=0.0087				

表3. 学生か教職員かと回答：有意な回答比率の差があったもの

属性	Q3 喫煙状況				計	
	1 非喫煙	2 禁煙(過去に喫煙)	3 現在喫煙			
学生	回答数	421	10	18	449	
	%	93.8	2.2	4.0	100.0	
	調整済残差	8.8	-8.0	-4.3		
教職員	回答数	31	15	10	56	
	%	55.4	26.8	17.9	100.0	
	調整済残差	-8.8	8.0	4.3		
Fisherの正確確率検定		P=0.0001				
全面禁煙であることを感じる						
		Q27 制限がない施設にいる場合と比べ、集中力は				
		1 より集中できると感じる	2 より集中できないと感じる	3 あまりかわらない	計	
学生	回答数	214	18	232	464	
	%	46.1	3.9	50.0	100.0	
	調整済残差	-1.8	-1.7	2.5		
教職員	回答数	34	5	19	58	
	%	58.6	8.6	32.8	100.0	
	調整済残差	1.8	1.7	-2.5		
Fisherの正確確率検定		P=0.0001				
全面禁煙はどうか						
		Q29 教育機関として当然のことだと思う				
		1 そう思う	4 そう思わない	計		
学生	回答数	365	77	462		
	%	83.3	16.7	100.0		
	調整済残差	2.4	-2.4			
教職員	回答数	41	17	58		
	%	70.7	29.3	100.0		
	調整済残差	-2.4	2.4			
カイ2乗検定		P=0.0183				

路上喫煙について

	Q34 道路は大学の敷地内ではないので、喫煙することに問題はない				計
	1 そう思う	2 ややそう思う	3 あまりそう思わない	4 そう思わない	
学生	184	278	462	461	
%	39.8	60.2	100.0	100.0	
調整済残差	2.8	-2.8			
教職員	12	46	58	58	
%	20.7	79.3	100.0	100.0	
調整済残差	-2.8	2.8			
カイ2乗検定	P=0.0046				

喫煙に関する考え

	Q49 保健、医療、福祉、教育に従事する専門職は喫煙すべきではない				計
	1 そう思う	2 ややそう思う	3 あまりそう思わない	4 そう思わない	
学生	116	153	121	71	461
%	25.2	33.2	26.2	15.4	100.0
調整済残差	-2.9	1.9	2.1	-1.4	
教職員	25	12	8	13	58
%	43.1	20.7	13.8	22.4	100.0
調整済残差	2.9	-1.9	-2.1	1.4	
カイ2乗検定	P=0.0038				
	Q50 保健、医療に従事する専門職は一般の人々に禁煙のアドバイスをするための知識を持っているべきだ				
	1 そう思う	2 ややそう思う	3 あまりそう思わない	4 そう思わない	計
学生	261	157	30	13	461
%	56.6	34.1	6.5	2.8	100.0
調整済残差	0.2	1.5	-1.1	-2.9	
教職員	32	14	6	6	58
%	59.2	24.1	10.3	10.3	100.0
調整済残差	-0.2	-1.5	1.1	2.9	
Fisherの正確確率検定	P=0.0209				

表4. 喫煙状況と回答：有意な回答比率の差があったもの

	Q25 制限がない施設にいる場合と比べ、体調は			計
	1 より少ないと感じる	2 より多いと感じる	3 あまりかわらない	
非喫煙	240	7	205	452
%	53.1	1.5	45.4	100.0
調整済残差	3.5	-2.0	-3.0	
禁煙	12	1	12	25
%	48.0	4.0	48.0	100.0
調整済残差	-0.2	0.7	0.0	
喫煙	3	2	24	29
%	10.3	6.9	82.8	100.0
調整済残差	-4.4	2.0	3.9	
Fisherの正確確率検定	P<0.0001			
	Q26 制限がない施設にいる場合と比べ、気分は			
	1 より少ないと感じる	2 より多いと感じる	3 あまりかわらない	計
非喫煙	308	19	125	452
%	68.1	4.2	27.7	100.0
調整済残差	5.6	-2.8	-4.5	
禁煙	13	1	11	25
%	52.0	4.0	44.0	100.0
調整済残差	-1.3	-0.3	1.5	
喫煙	3	6	20	29
%	10.3	20.7	69.0	100.0
調整済残差	-6.2	3.9	4.6	
Fisherの正確確率検定	P<0.0001			
	Q27 制限がない施設にいる場合と比べ、集中力は			
	1 より少ないと感じる	2 より多いと感じる	3 あまりかわらない	計
非喫煙	227	15	210	452
%	50.2	3.3	46.5	100.0
調整済残差	3.9	-3.8	-2.3	
禁煙	10	1	14	25
%	40.0	4.0	56.0	100.0
調整済残差	-0.7	-0.1	0.8	
喫煙	2	7	20	29
%	6.9	24.1	69.0	100.0
調整済残差	-4.5	5.2	2.3	
Fisherの正確確率検定	P<0.0001			

		Q28 制限がない施設にいる場合に比べ、ストレスは			
		1 より少ないと感じる	2 より多いと感じる	3 あまりかわらない	計
非喫煙	回答数	295	18	139	452
	%	65.3	4.0	30.8	100.0
	調整済残差	5.2	-5.4	-2.7	
禁煙	回答数	12	2	10	24
	%	50.0	8.3	41.7	100.0
	調整済残差	-1.2	0.5	1.0	
喫煙	回答数	3	10	16	29
	%	10.3	34.5	55.2	100.0
	調整済残差	-5.8	6.7	2.7	
Fisherの正確確率検定		P<0.0001			

		Q29 教育機関として当然のことだと思う		
		1 そう思う	2 そう思わない	計
非喫煙	回答数	383	67	450
	%	85.1	14.9	100.0
	調整済残差	6.0	-6.0	
禁煙	回答数	15	10	25
	%	60.0	40.0	100.0
	調整済残差	-2.8	2.8	
喫煙	回答数	13	16	29
	%	44.8	55.2	100.0
	調整済残差	-5.3	5.3	
Fisherの正確確率検定		P<0.0001		

		Q36 道路上の喫煙はよくないので、やめるように自覚を促すべき		
		1 そう思う	2 そう思わない	計
非喫煙	回答数	264	186	450
	%	58.7	41.3	100.0
	調整済残差	3.4	-3.4	
禁煙	回答数	8	16	24
	%	33.3	66.7	100.0
	調整済残差	-2.3	2.3	
喫煙	回答数	10	19	29
	%	34.5	65.5	100.0
	調整済残差	-2.4	2.4	
カイ2乗検定		P=0.0028		

		Q37 道路上の喫煙はよくないので、大学の規則で禁止すべき		
		1 そう思う	2 そう思わない	計
非喫煙	回答数	154	297	451
	%	34.1	65.9	100.0
	調整済残差	2.5	-2.5	
禁煙	回答数	5	18	23
	%	21.7	78.3	100.0
	調整済残差	-1.1	1.1	
喫煙	回答数	4	25	29
	%	13.8	86.2	100.0
	調整済残差	-2.2	2.2	
カイ2乗検定		P=0.0407		

		Q38 道路上の喫煙はよくないので、市の条例(文教地区では道路上の喫煙を禁止する条例など)で法的に禁止すべき		
		1 そう思う	2 そう思わない	計
非喫煙	回答数	172	272	444
	%	38.7	61.3	100.0
	調整済残差	2.6	-2.6	
禁煙	回答数	6	16	22
	%	27.3	72.7	100.0
	調整済残差	-1.0	1.0	
喫煙	回答数	4	24	28
	%	14.3	85.7	100.0
	調整済残差	-2.5	2.5	
カイ2乗検定		P=0.0216		

		Q39 タバコを吸うこと自体が病気になる、KTSND				
		1 そう思う	2 ややそう思う	3 あまりそう思わない	4 そう思わない	計
非喫煙	回答数	92	143	126	90	451
	%	20.4	31.7	27.9	20.0	100.0
	調整済残差	0.7	1.8	2.1	-4.8	
禁煙	回答数	4	5	3	13	25
	%	16.0	20.0	12.0	52.0	100.0
	調整済残差	-0.5	-1.2	-1.7	3.5	
喫煙	回答数	5	6	5	14	30
	%	16.7	20.0	16.7	46.7	100.0
	調整済残差	-0.5	-1.3	-1.3	3.2	
Fisherの正確確率検定		P=0.0015				

		Q41 タバコは嗜好品(ごうひん):味や刺激を楽しむ品)である:KTSND				計
		1 そう思う	2 ややそう思う	3 あまりそう思わない	4 そう思わない	
非喫煙	回答数	181	135	73	62	451
	%	40.1	29.9	16.2	13.7	100.0
禁煙	調整済残差	-3.6	2.7	1.0	0.6	
	%	13	4	5	3	25
	回答数	520	160	200	120	1000
	%	0.9	-1.4	0.6	-0.2	
喫煙	調整済残差	23	3	1	3	30
	%	76.7	100	3.3	10.0	100.0
	回答数	3.9	-2.3	-1.9	-0.6	
Fisherの正確確率検定 P=0.0053						

		Q42 喫煙する生活様式も尊重されてよい:KTSND				計
		1 そう思う	2 ややそう思う	3 あまりそう思わない	4 そう思わない	
非喫煙	回答数	67	134	175	74	450
	%	14.9	29.8	38.9	16.4	100.0
禁煙	調整済残差	-5.5	1.5	3.3	-0.3	
	%	8	5	4	8	25
	回答数	320	200	160	320	1000
	%	1.8	-1.0	-2.2	2.1	
喫煙	調整済残差	17	6	5	2	30
	%	56.7	200	16.7	6.7	100.0
	回答数	5.6	-1.1	-2.3	-1.5	
Fisherの正確確率検定 P<0.0001						

		Q43 喫煙によって人生が豊かになる人もいる:KTSND				計
		1 そう思う	2 ややそう思う	3 あまりそう思わない	4 そう思わない	
非喫煙	回答数	61	114	160	113	448
	%	13.6	25.4	35.7	25.2	100.0
禁煙	調整済残差	-2.0	-0.6	2.1	0.0	
	%	2	10	5	8	25
	回答数	80	40.0	20.0	32.0	100.0
	%	-1.0	1.7	-1.5	0.8	
喫煙	調整済残差	11	6	7	6	30
	%	36.7	200	23.3	20.0	100.0
	回答数	3.5	-0.8	-1.3	-0.7	
Fisherの正確確率検定 P=0.0236						

		Q44 タバコには効用(からだや精神に良い作用)がある:KTSND				計
		1 そう思う	2 ややそう思う	3 あまりそう思わない	4 そう思わない	
非喫煙	回答数	23	52	129	247	451
	%	5.1	11.5	28.6	54.8	100.0
禁煙	調整済残差	-2.9	-1.5	0.0	2.3	
	%	4	5	5	10	24
	回答数	16.7	20.8	20.8	41.7	100.0
	%	2.2	1.3	-0.9	-1.1	
喫煙	調整済残差	4	5	10	10	29
	%	13.8	17.2	34.5	34.5	100.0
	回答数	1.8	0.8	0.7	-2.1	
Fisherの正確確率検定 P=0.0235						

		Q45 タバコにはストレスを解消する作用がある:KTSND				計
		1 そう思う	2 ややそう思う	3 あまりそう思わない	4 そう思わない	
非喫煙	回答数	75	171	98	105	449
	%	16.7	38.1	21.8	23.4	100.0
禁煙	調整済残差	-3.2	0.5	1.9	0.6	
	%	5	8	4	8	25
	回答数	200	32.0	16.0	32.0	100.0
	%	0.2	-0.6	-0.6	1.1	
喫煙	調整済残差	14	11	2	3	30
	%	46.7	36.7	6.7	10.0	100.0
	回答数	4.1	-0.1	-1.9	-1.7	
Fisherの正確確率検定 P=0.0060						

		Q46 タバコは喫煙者の頭の働きを高める:KTSND				計
		1 そう思う	2 ややそう思う	3 あまりそう思わない	4 そう思わない	
非喫煙	回答数	25	35	149	242	451
	%	5.5	7.8	33.0	53.7	100.0
禁煙	調整済残差	-3.1	-1.3	2.7	-0.3	
	%	3	4	2	15	24
	回答数	12.5	16.7	8.3	62.5	100.0
	%	1.2	1.5	-2.5	0.9	
喫煙	調整済残差	6	3	6	15	30
	%	20.0	10.0	20.0	50.0	100.0
	回答数	3.0	0.3	-1.4	-0.4	
Fisherの正確確率検定 P=0.0036						

		Q47 医師はタバコの害を騒がせざる:KTSND				計
		1 そう思う	2 ややそう思う	3 あまりそう思わない	4 そう思わない	
非喫煙	回答数	30	28	164	226	448
	%	6.7	6.3	36.6	50.4	100.0
禁煙	調整済残差	-3.4	-1.8	2.2	0.7	25
	%	4	1	6	14	56.0
	回答数	160	40	240	160	1000.0
	%	15	-0.6	-1.2	0.8	30
喫煙	調整済残差	1.5	0.0	6	11	1000.0
	%	23.3	20.0	20.0	36.7	
	回答数	7	6	6	11	30
	%	3.1	2.9	-1.8	-1.5	1000.0
Fisher の正確確率検定		P=0.0014				

		Q48 血圧が置かれている場所は、喫煙できる場所である:KTSND				計
		1 そう思う	2 ややそう思う	3 あまりそう思わない	4 そう思わない	
非喫煙	回答数	186	164	57	43	450
	%	41.3	36.4	12.7	9.6	100.0
禁煙	調整済残差	-3.3	3.2	0.7	-0.4	25
	%	14	4	3	4	100.0
	回答数	560	160	120	160	1000.0
	%	1.3	-2.0	0.0	1.1	29
喫煙	調整済残差	21	4	2	2	1000.0
	%	72.4	13.8	6.9	6.9	
	回答数	3.2	-2.4	-0.9	-0.5	1000.0
Fisher の正確確率検定		P=0.0125				

		Q49 保健、医療、福祉、教育に従事する専門職は喫煙すべきではない				計
		1 そう思う	2 ややそう思う	3 あまりそう思わない	4 そう思わない	
非喫煙	回答数	128	152	115	54	449
	%	28.5	33.9	25.6	12.0	100.0
禁煙	調整済残差	2.5	2.1	1.8	-7.7	25
	%	5	8	2	10	100.0
	回答数	200	320	80	400	1000.0
	%	-0.8	0.0	-2.0	3.3	30
喫煙	調整済残差	2	3	6	19	1000.0
	%	6.7	10.0	20.0	63.3	
	回答数	-2.6	-2.7	-0.6	7.1	1000.0
Fisher の正確確率検定		P<0.0001				1.98661E-10

		Q50 保健、医療に従事する専門職は一般の人々に禁煙のアドバイスをするための知識を持っているべきだ				計
		1 そう思う	2 ややそう思う	3 あまりそう思わない	4 そう思わない	
非喫煙	回答数	262	148	27	12	449
	%	58.4	33.0	6.0	2.7	100.0
禁煙	調整済残差	2.6	0.0	-2.8	-3.1	25
	%	13	8	2	2	100.0
	回答数	520	320	80	80	1000.0
	%	-0.4	-0.1	0.2	1.2	30
喫煙	調整済残差	9	10	7	4	1000.0
	%	30.0	33.3	23.3	13.3	
	調整済残差	-3.0	0.0	3.6	3.0	1000.0
Fisher の正確確率検定		P=0.0006				

表 5. 敷地内全面禁煙がどうあるべきかについての回答と関連する属性の関係 (ロジスティック回帰分析)

	有意確率	
	性別	学生か教職員か
Q29 教育機関として当然のことだと思う	0.4317	0.8958
Q30 道路上の喫煙は臭苦しい、隠れてトイレなどで吸うことで火災の危険もあるなどの理由で、仕方がないが喫煙室を設置すべき	0.7850	0.0742
Q31 成人の喫煙は合法なので、喫煙室を設けるなど喫煙者の権利も一部守ってほしい	0.3963	0.0139
Q32 成人の喫煙は合法なので、喫煙の規制は廃止するべきである	0.2543	0.4113

表 6. 道路上での喫煙についての回答と関連する属性の関係 (ロジスティック回帰分析)

	有意確率	
	性別	学生か教職員か
Q33 成人の喫煙は法的に認められているので、喫煙場所を規制するほうが間違っている(大学の敷地内禁煙も間違いない)	0.1432	0.0492
Q34 道路は大学の敷地内ではないので、喫煙することに問題はない	0.1332	0.0012
Q35 道路上の喫煙はよくないが、しかたがない	0.8837	0.7915
Q36 道路上の喫煙はよくないので、やめるように自覚を促すべき	0.1323	0.0211
Q37 道路上の喫煙はよくないので、大学の規則で禁止すべき	0.9792	0.7700
Q38 道路上の喫煙はよくないので、市の条例(文教地区では道路上の喫煙を禁止する条例など)で法的に禁止すべき	0.7725	0.7903

表 7. 加齢式社会的ニコチン依存度 (Q39~48 の回答から計算)

全回答者	回答数	平均数	SD	Median	MAX	MIN
	507	13.5	6.1	13	30	0
性別	回答数	平均数	SD	Median	MAX	MIN
男性	92	16.0	6.9	17	30	0
女性	415	13.0	5.7	13	30	0
	Mann-Whitney U 検定 P<0.0001					
学生か教職員か	回答数	平均数	SD	Median	MAX	MIN
学生	450	13.6	6.0	13	30	0
教職員	55	12.7	6.8	12	30	0
	Mann-Whitney U 検定 P=ns					
喫煙状況	回答数	平均数	SD	Median	MAX	MIN
非喫煙者	437	13.1	5.8	13	27	0
喫煙者	24	14.0	7.1	14	27	0
	29	18.8	6.6	18	30	1
	Kruskal Wallis 検定 P<0.0001 Steel-Dwass 検定 *:P<0.05					

表 8. 禁煙のきっかけ

質問	質問	選択肢	回答数	%
禁煙のきっかけ Q4 以前習慣的に吸っていたことがあるが現在は吸わない人への質問です 喫煙をやめたきっかけは何ですか 最も該当するものをひとつ選んでください	1 学校や職場の禁煙	1	45	4.5
	2 たはこの値上げ	5	227	22.7
	3 自分の健康を考えて	9	409	40.9
	4 配偶者や身近な異性の健康を考えて	2	91	9.1
	5 子どもの健康を考えて	1	45	4.5
	6 配偶者や身近な異性の意見で(不快感など)	0	0	0.0
	7 社会的な責任を考えて(社会的立場など)	2	91	9.1
	8 その他	2	91	9.1
その他: たはこのほほど好きでなかった				

表 9. 喫煙者に対する質問項目への回答

		質問		選択肢				回答数	%
ニコチン依存度	Q9	起床後何分で最初の喫煙をしますか		15分以内	2.30分以内	31時間以上	41時間以上	5	16.7
	Q10	喫煙を禁じられている場所(大学、図書館、映画館など)で禁煙すること が難しいですか		1はい	2いいえ			8	26.7
	Q11	1日の喫煙の中でどれが一番やめにくいですか		1朝最初の1本	2その他			6	20.0
	Q12	他の時間帯より起床後数時間に多く喫煙しますか		1はい	2いいえ			2	6.7
	Q13	ほとんど1日中、床に伏しているような病気の時でも喫煙しますか		1はい	2いいえ			28	93.3
大学での喫煙	Q14	現在の喫煙時間帯はいつですか		1大学にいるときには吸わない	2大学にいたときにも吸う			14	46.7
	Q15	現在の喫煙場所はどこですか		1大学の敷地から出た道路上で吸う	2大学の建物の中(トイレなど)でこっそり吸う	3大学の建物の外、敷地の中(グラウンドの隅っこなど)でこっそり吸う		17	53.3
喫煙本数変化	Q16	学校や職場の禁煙化で喫煙本数が変化しましたか		1減った	2増えた	3変わらな		3	31.0
	Q17	たばこの値上げで喫煙本数が変化しましたか		1減った	2増えた	3変わらな		17	58.6
	Q18	禁煙したいと思うか		1今は禁煙したいと思わない	2禁煙したいがもう少し先でよい	3すぐにでも禁煙したい	4すでに禁煙に取り組んでいる	14	50.0
禁煙希望	Q19	ニコチンガム：薬局で入手できる：約 20,000 円 (全額)		1希望する	2希望しない	3その方法を知らなかった		16	100.0
	Q20	ニコチンパッチ：保険診療で約 12,000 円 (全額) 自由診療では約 40,000 円 (全額)		1希望する	2希望しない	3その方法を知らなかった		5	31.3
	Q21	禁煙補助薬：チャレンジックス：保険診療で約 20,000 円 (全額) 自由診療では約 40,000 円 (全額)		1希望する	2希望しない	3その方法を知らなかった		12	75.0
	Q22	電子たばこなどの禁煙グッズ		1希望する	2希望しない			5	31.3
	Q23	特に使わないでかまえる方法		1希望する	2希望しない			11	68.8
禁煙方法の希望	Q24	医療機関の保険診療での禁煙治療		1希望する	2希望しない	3その方法を知らなかった		4	26.7
				1希望する	2希望しない			6	37.5
				1希望する	2希望しない			9	56.3
				1希望する	2希望しない			1	6.3

表 10. 喫煙者の中での属性 (性別、学生か教職員か) による回答：有意な回答比率の差があったもの

禁煙希望	属性	Q18 禁煙したいと思うか				計
		1 今は禁煙したいと思わない	2 禁煙したいがもう少し先でよい	3 今すぐにも禁煙したい	4 すでに禁煙に取り組んでいる	
学生	回答数	5	11	0	1	17
	%	29.4	64.7	0.0	5.9	100.0
	調整済残差	-2.5	2.2	-	0.8	
教職員	回答数	8	2	0	0	10
	%	80.0	20.0	0.0	0.0	100.0
	調整済残差	2.5	-2.2	-	-0.8	
Fisherの正確確率検定		P=0.0302				

表 1. 喫煙者の喫煙本数、喫煙歴、タバコ指数、ニコチン依存度、KTSND

喫煙本数(本/日)	全体	回答数	平均数	SD	Median	MAX	MIN	P.t. 検定
性別	男性	12	13.2	5.3	15	20	5	
	女性	17	11.9	6.2	10	30	5	ns
学生か教職員か	学生	18	11.4	5.9	10	30	5	
	教職員	9	14.1	5.7	15	20	5	ns
喫煙歴(年)	全体	回答数	平均数	SD	Median	MAX	MIN	P.t. 検定
性別	男性	12	11.7	11.5	9	35	1	
	女性	17	6.7	6.7	5	27	2	ns
学生か教職員か	学生	18	4.2	2.5	4	9	1	0.0072
	教職員	9	17.4	11.1	15	35	4	
タバコ指数(本×年)	全体	回答数	平均数	SD	Median	MAX	MIN	P.t. 検定
性別	男性	12	179.4	235.4	76.5	700	5	
	女性	17	84.7	97.8	60	405	12	ns
学生か教職員か	学生	18	47.3	31.7	42.5	120	5	0.0198
	教職員	9	280.6	241.0	165	700	20	
ニコチン依存度	全体	回答数	平均数	SD	Median	MAX	MIN	P.U. 検定
性別	男性	12	2.9	1.2	3	5	1	
	女性	18	2.2	1.7	2	6	0	ns
学生か教職員か	学生	18	2.5	1.4	2	6	0	
	教職員	10	2.6	1.8	3	5	0	ns
KTSND	全体	回答数	平均数	SD	Median	MAX	MIN	P.U. 検定
性別	男性	12	20.0	5.7	20.5	30	10	
	女性	18	22.4	20.6	18	100	1	ns
学生か教職員か	学生	18	24.5	19.7	19.5	100	10	
	教職員	10	16.3	7.9	16.5	30	1	ns

表 1.2. 喫煙者について：喫煙本数、喫煙歴、タバコ指数、ニコチン依存度、KTSNDの間の相関

	ニコチン依存度	KTSND
喫煙本数(本/日)	ρ 0.4104 0.0270 29	ρ 0.0524 0.7911 28
喫煙歴(年)	ρ 0.1208 0.5326 29	ρ -0.0059 0.9761 28
タバコ指数(本×年)	ρ 0.1788 0.3535 29	ρ -0.0032 0.9873 28
ニコチン依存度	ρ 0.0114 29	ρ 0.4631 0.0114 29

 ρ : Spearman の順位相関係数